がんばろう
南三陸町
復興第44号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所
千葉総合印刷株式会社
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068
志津川広報センター
企画・編集　千葉伸孝

志津川地区観光交流拠点

整備予定地造成完了見学会

平成 27 年 10 月 24 日

志津川地区の旧五日町の朝緑商店さんから旧南三陸商工会の跡地のエリアが、志津川低地部市街地として先立って造成が完了した。ここが町の観光交流拠点として整備がされる。見学会開催の目印のアドバルーンも上げられた。

10 時から 13 時まで造成完了にあたり式典も行われた。会場ではみはらし台から現在までの市街地の復旧復興の姿が見られ、重機の試乗や、いも煮も 200 食ふるまわれた。また、設置されたテントでの、完成予定の商店街の模型や７月に公開審査された港橋の２点の優秀賞の提案模型も展示され、現場や事業の説明ブースも設けられた。

見学会の特設会場では、南三陸町長と町づくり会社未来、嵩上げ造成と商店街建設を進めるUR 都市機構の挨拶と説明があった。

八幡川河口と改築される港橋

南三陸町佐藤仁町長の挨拶では、被災した学校も戸倉小学校の再建復旧を終了し、防集事業・産業・教育施設の整備が進んでいる。町の基幹産業である「サケのふ化場」の整備を完成し、500 万匹から１千万匹の放流が可能となった。また、病院・ケアセンターの定礎、開院への日程も決定するなど、「復興の報告ができた事を嬉しく思う。」と語った。

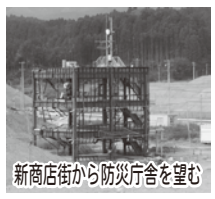
産業部会の議論を受け、低地部の活用に、「親水性」「回遊性」が求められた市街地づくりがあり、地域の有り方が見えてきたと語り、「未来に向けての思いを馳せていただきたい」と述べた。

志津川市街地の再建を進める「まちづくり未来」の三浦代表は、「前向きにガンバロウとの思いでいっぱいです。」と第一声で話した。その広大な現場を見て責任を痛感するとも語った。南三陸町「さんさん商店街」は、今だに盛況を続けている。今後は 32 店舗が 28 年３月３日のオープン予定に向け、「未来を秘めた者たちが頑張っている。」締めくくった。

町づくり会社未来三浦代表

汐見橋の改築工事

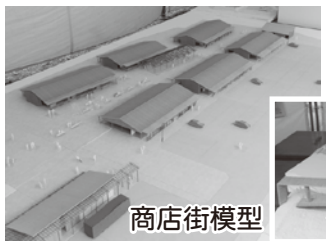
最後に UR 都市機構の南三陸所長が、復興状況と進捗の説明があった。震災２年半後に南三陸町に来て「２年前の 10 月か 12 月にこの場所から土を盛った」と言う。70％の土量を完了し仮置きは 63％で、高台も４割が今年度中となり、来年度には高台土地整備が 490 世帯と 17 棟の災害公営住宅が今年度中に着工し、来年の中には完了し引き渡しを予定する。



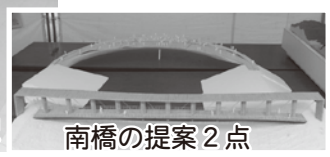
新商店街から防災庁舎を望む

志津川地区の低地部は「観光交流拠点施設」として商工業の拠点となる。また、新井田地区には「ショッピングセンター」ができ、「しおさい通り」の整備では昔ながらの面影を再現し、海に向かっての商店街を造る計画を説明した。

設けられた「みはらし台」には、志津川市街地の変わりゆく光景に、以前のなつかしい町並みに思いを語る町民の方々の姿があった。



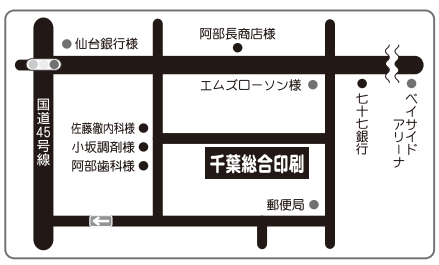
商店街模型



南橋の提案２点

年賀・喪中 申し込み受付け中！
TEL (0226) 46–3069（電話でも申込可能です）

千葉総合印刷(株)
南三陸町志津川字沼田150-84
FAX 0226 － 46 － 3068



●年賀見本は他にもカラー・白黒・住所移転・結婚挨拶状もあります。
●宛名印刷も承ります。
●喪中は早急仕上げ

申し込み用紙
●郵便番号・住所／〒　●申込番号
●名前　●電話番号　●枚数

未来への教訓

復興！　大津波の記憶を風化させない

平成27年（2015年）７月の出来事

～ 地元報道より ～

７月の出来事下期

◇全国高校野球宮城県大会で志津川高校は、３回戦の佐沼戦に延長 13 回４対３で勝った。17日の４回戦は育英との対戦で１点を先取したものの「１対１１」のコールドで敗れた。コボスタでの試合には南三陸町から多くの生徒・町民が応援に駆け付けた。

◆気仙沼市上東側の齋藤さん（81）は、桑の葉の収穫を 14 日から始め１日 600ｋを摘み取る。お茶やパウダーに加工し、桑の葉の利用が見直されている。

◇本吉・気仙沼地方で 14 日、史上最高の「36.7℃」を記録し、熱中症で３人が搬送された。

◇南三陸町老人クラブ連合会では地域ネットワークを利用し、一人暮らしの高齢者を見守る友愛事業を９月から始める。

◆気仙沼市いじめ対策連絡協議会では、岩手県の中学生がいじめを訴え自殺した問題を受け、教育関係者や行政・ＰＴＡ など、情報の共有の在り方について意見を交換した。

南三陸町では地方創生戦略会議の策定のために、16 名の 20 代から 40 代で震災後に町内に移住した若者や、まちづくり関係者による「推進会議」を 29 日立ち上げる。
「若者定住」「出生率向上」を重点に、①ＵＩＪターン者向けの住居と生産 ②再生エネルギーの地域資源を生かした循環経済の拡大 ③地域で支える子育て環境の充実に取り組む。

◆気仙沼市の「新唐桑トンネル」延長 1167mは、１日３ m ずつ掘削し貫通を来年 12 月を予定している。

◆気仙沼向洋高校の産業経済２年の 40 人が、昨年度に開発した「酒粕ミルクジャム」のスイーツのアイディアを「試したい」と菓子組合とのコラボレーションを提案した。

◆気仙沼市の「サメワーキンググループ高機能部会」は、サメのコラーゲンと大島のユズを利用し「気仙沼産化粧品」を 20 日発売する。販売は旧田中前の「ケセモマリナス」が新ブランドとして、新商品の開発と企画をする。

◇歌津長須賀海岸の延長 150m を「長須賀つながりビーチ」として、ボランティア「震災復興支援協力隊」と中・高生や住民有志でシャワーや仮設トイレを整備した。地元の子供たちも砂浜の清掃活動をして８月１日から９日で海水浴時間は AM10 時から PM３時まで歌津の海を楽しめる。

◇南三陸町の港橋のデザインコンペがベイサイドアリーナで19日に公開審査が開催された。当初は１点選ぶ予定が三日月のような曲線型の森さん（31）・ドイツベルリン在住の蜷川さん（29）の作品と、橋の高さを波高の15.9m とし津波を伝承するコンセプトの堀越さん（22）の２点を優秀案とした。

◆気仙沼市の大島汽仙は、大島架橋完成にともない 30 年度に定期航路を廃止する。廃船にあたり今後の交通弱者対策や雇用確保が課題となる。

◇南三陸町の防災集団移転事業の 12 団地 42 区画で空きができ、町では再募集をしている。現在まで 21 団地 255 戸が造成完了している。全町では 20 地区 28 団地に計 841 戸を整備する。

◇南三陸町の志高・歌中・志中の生徒会では、巨大地震のネパールに義援金を募った。４月 25 日の地震発生直後から募金が始まり、３校４万２千円を 22 日までに集め募金を赤十字を通じ現地に届ける。

◇南三陸町内で生産されるスギ・アカマツ・ヒノキなどの「南三陸産材のブランド化」に林業家が取り組んでいる。そのためには「国際認証（FSC）」の取得が必要で、2020 年のオリンピックの施設の建材にも優先して利用され販路拡大につながる。現在民間の認証審査会社「アミタ」を通して、申請を済ませ、９月には認証される見通し。

◇志津川市街地災害公営住宅の東地区で２ヵ所目が着工した。鉄骨４階建ての集合タイプ２棟（56 戸）がベイサイドアリーナ向かいに、来年９月の完成を目指す。

◆第２回沿線自治体首長会議が 24 日国土交通省で開催され、気仙沼線・大船渡線は BRT での本復旧を目指す事を JR 東日本が示した。気仙沼菅原市長は、観光振興や仙台へのアクセスなど、鉄路での復旧再建を JR に話し合いを進めていく考えを示した。

◇南三陸町歌津伊里前の旧伊里前駅裏の鎮魂の森に「歌津観音」が建設された。元歌津町長の牧野さんが、自分の息子さんを含めた多くの被災者や遺族の悲しみが安らぐようにと、私財を投じて建立した。24 日の「開眼法要」が現地で 30 人が参列して開催され、町民の生きる力になればとの思いを込めた。

◇戸倉小学校の２階建て校舎（2977 ㎡）がほぼ完成し、10 月供用開始へと向かっている。総工費は 15 億２千万円で、国の災害復旧費と復興交付金があてられた。

◇第２次世界大戦で日本軍から徴用船として使用された、旧志津川町の漁船「天洋丸」の大漁旗が 73 年ぶりに、乗組員で戦死した歌津館浜の三浦さんのものとわかり、三浦さんの遺族に返還された。ガダルカナル島戦で沈没した天洋丸の大漁旗を、米国オハイオ州のピーターさん（93）が同僚の退役軍人から受け取り、今回歌津館浜の三浦さんの遺族の手元に戻ってきた。

◆気仙沼市の本年度の交付金が「想定内」の２億円減の配分となった。来年度以降にも大幅に減少への要素を含んでいる。

◇南三陸町入谷桜沢にビジネスホテル「アイルーム南三陸」の建設計画がある。気仙沼市・陸前高田市など今建設で被災地に６棟目となる。今後の町内への観光や工事関係者の宿泊を見込む。町内の民宿も何棟かの再建もみられ、競争が激化しそうだ。

◆県議選の気仙沼・本吉選挙区において、気仙沼市議会議長守屋守武氏（56）が出馬を固めた。その他にも別の新人の動きもみられる。

◆27 日気仙沼市内の学校の合併統合が進められている中で、水梨小学区の地域懇談会があり、市教育委員会に対して住民から慎重意見が多数出された。

◇南三陸町の新たな商店街の「まちびらきエリア」が９月の引き渡しを予定し、造成が進み、完成後は UR 都市機構から町に引き渡される。エリアの観光ゾーンは約２ha で、さんさん商店街の店舗を中心にコンビニ・飲食店・小売業など 31 店舗が入居する予定で、28 年 12 月の開業を目指す。

◆気仙沼商工会議所と水産流通部会は、８月１日を「かつおの日」にと来年の制定に向け準備委員会を立ち上げた。

◇５年後の東京オリンピック成功と被災地の早期復興の願いを込め、青森と東京をむすぶ「未来（あした）への道 1000ｋ縦断リレー」が 28・29 日の両日に気仙沼市と南三陸町をコースに行われた。

◇29 日南三陸町役場において初めての「推進会議」が開かれ、地方創生の施工にあたり町の総合略策定の議論が開催された。現状のままでの死者数（自然減）や出生率など人口の動向が示され、25 年後（平成 52 年）には「8109 人」と人口減少による数字が示された。

◇南三陸町の住民への町税の国民健康保険税・住民税などの過大賦課を 30 日に発表し、総額で 3600 万円にのぼる。町長はチェック体制が甘かったと陳謝した。

平成 27 年度志津川小学校の学習発表会が 10 月 18 日に開催され、その来場者の数に驚いた。体育館は修繕中で玄関はホール側からで、PTA の父母会が駐車場の配車や会場整備に働いていた。午前 8 時 50 分からの開演となり、開会の言葉では一年生が元気いっぱいにあいさつし、次に吹奏楽部の 32 名が「エンジョイ・プラス !」で来場者を歓迎した。そして、丸森校長先生のあいさつに続き 4 番目の二年生の「群読・ダンス」で学習発表会がスタートした。
私は三年前に小学校の学芸会の見学が最後で、今回は先生や父母会に「是非来て下さい」の言葉が後押しをした。そして写真（下）は６年生の「東京オリンピック 1964」の劇の様子です。

６年生による「東京オリンピック１９６４」

戦争からの敗戦で日本の復興にはオリンピック開催が必要と言い、幻に終わった東京オリンピック、戦争直前に中止があった。出られなかった選手はアメリカでの水泳大会で大きな結果を残した。外交官やこうした選手・スポーツ関係者を中心に、オリンピックの東京開催の誘致活動を劇化した人々の物語だった。
講道館の加納治五郎が東京オリンピック誘致活動をしていた。政府の外交官平沢と水泳の広畑・橋爪選手の活動があり、世界の誘致国は「戦争の敗戦国に開催の資格はない」と言った。加納先生の死に際の「頼むぞ」との言葉に世界の人の心が動いた。
ここには「スポーツの力」があり、「心の距離を縮める事が大切」と話し、「お互いが一緒に、人と人とが直接会う事が一番」「アジアで最初の開催を」と日本のプレゼンテーションを、関わった多くの人達の思いを平沢は述べた。有力の米国デトロイトの 10 数票に対し、日本は 30 票を超える世界からの指示を受けた。

子供たちの元気な歌声が響く

昭和 39 年 10 月 10 日の東京オリンピックでは、バレー女子の「東洋の魔女」や柔道・体操の活躍があり、金 16 個・銀５個・銅８個の大活躍となった。戦争からの復興と希望と勇気を与えてくれた、東京オリンピックの誘致に取り組んだ、裏側の人達の活動を「地上の星」の音楽をバックに劇化した。最後の全員での「オリンピックの歌」では、会場から自然と拍手が生まれ、子供たちの演技にすすり泣く姿が会場に見られた。戦後の復興のキッカケをオリンピックに託し、見事に日本は敗戦からの経済の復興を成し遂げた。今回の大震災からの復興の在り方を訴えた劇に、来場者は南三陸町の復旧復興をダブらせただろう。
子供達の発表にはキーワードがあり、発表でも「友達」「支えてくれる人がいる」など、学校生活の中で先生・家庭・地域があって、支えてくれる友達の大切さを演技で表していた。
学校生活の中で新たな挑戦への発表でもあった。子供達の劇は復興に必要な事は何かを説いている。学芸会の直後に安倍総理の病院視察があり、引き継続き石井国土交通大臣が来町し、市街地の復興と BRT のバス停の視察をした。子ども達は町の復興の進む途上で、厳しい環境の中を希望と期待を胸に一歩ずつ歩んでいる。

多くの観客が発表を見つめる